

月報アルバム

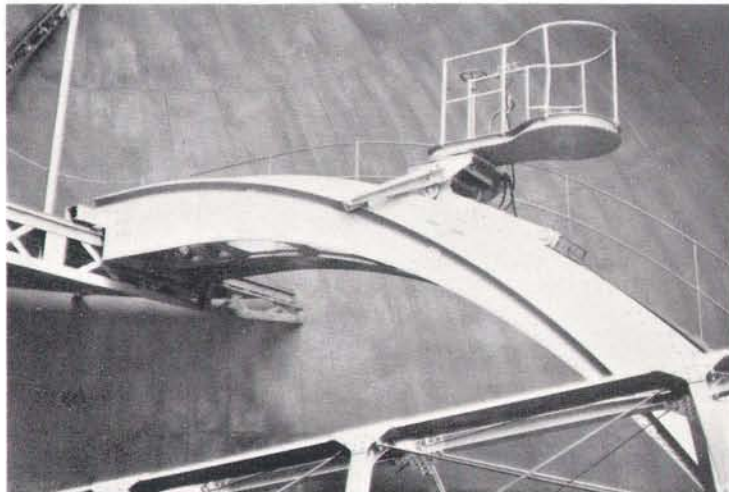
ディビッド・ダンラップ天文台

松波直幸氏が送って来られた写真のうち3枚を紹介する。くわしくは本文記事を参照されたい。



① 西北より写した研究室の建物。屋上のドームは3つのうち、北と真中のもの。

② 74インチ反射鏡のドーム

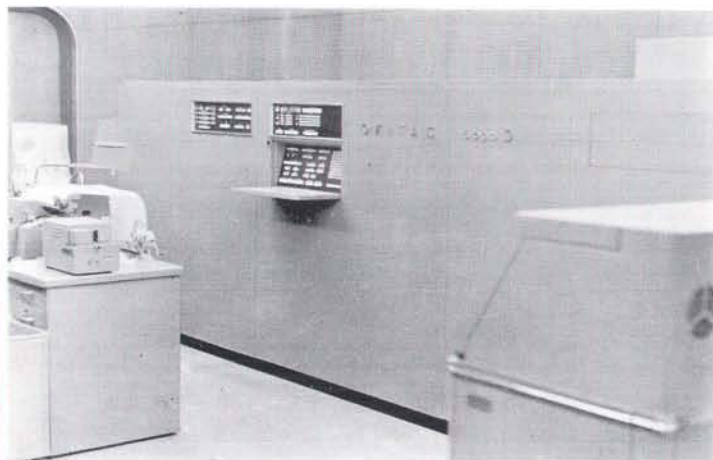


③ 74インチのブリッチとプラットフォーム。望遠鏡は南に倒しておいてある。

新設された東京天文台人工衛星国内計算施設

人工衛星国内計算施設は昭和40年度東京天文台に新設が認められ、同時に計算機購入の予算も配付された。東京天文台では関係者間で協議した結果、

OKITAC-5090D型を購入することに決め、新館の完成をまってそのすえつけ調整がはじまっている。このOKITAC-5090D型の記憶容量はほぼ4000



① 正面にあるのがOKITAC-5090のいわゆる計算機本体で、この中に記憶装置などが入っていて、中央演算装置とよばれ、固体素子回路を使用している。右端にあるのはOKITAC-5093高速印刷装置、いわゆるライン・プリンターである。

② 机上手前の機械はOKITAC-5095卓上光電式テープ読取装置、机上のむこうの機械はOKITAC-5091電動タイプライター、正面向の2台は、OKITAC-5099 T₂磁気テープ装置。



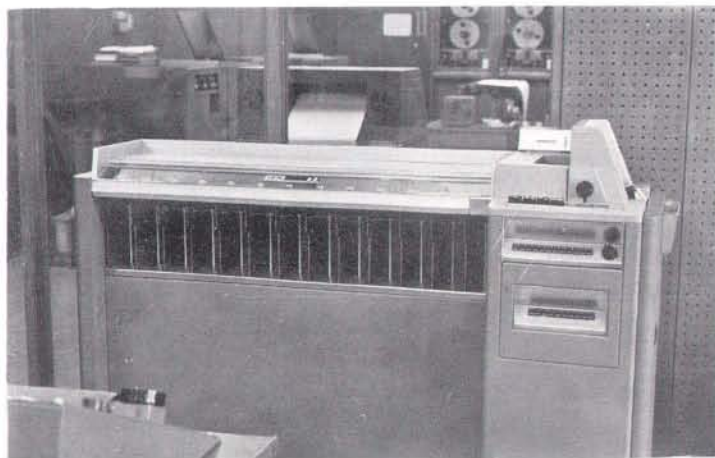
③ 左側はOKITAC-5092カード読取穿孔装置、右側はOKITAC-5094カード読取装置。

ルビム

語、データをカード又は紙テープで読みとり、計算結果をカードにうちだすことも可能で、磁気テープは2台ついている。

計算機は、東京天文台内での人工衛星の観測の整理、その解析などに主として使われ、そのための研究

要員も施設にはいっている。また施設の運営にかんする重要事項を協議するための運営協議会も台内にもうけられる予定である。（くわしい性能のデータは雑報参照のこと）。



④ IBM 83 型カカード分類機で、1分間に 1000 枚の割合で、機械の中を通過分類することが出来る。

⑤ IBM 26 型印刷穿孔機で、入力カードの穿孔、印刷を同時に行うことが出来る。



⑥ 自動記録読取装置で、各種記録計等によって、画かれたグラフチャート類を整理分析するため、グラフ面を目で追いながら、物差により、その尺度を読み取り、自動的に書直されて、印字され、なおパンチカード作製も同時に行われるものである。手前はタイプ印字のみが行われ、窓側のものは、穿孔機に連動されている。天文台測光部所属の装置で、便宜上計算室におかれている。